

平成26年  
(2014年)  
春号

# 大津・南部の農業

発行  
滋賀県大津・南部農業農村  
振興事務所 農産普及課  
草津市草津三丁目14-75  
TEL 077-567-5421~5423  
FAX 077-562-8144  
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp  
発行責任者 古谷 博幸

## 目次

- 新規就農者・就農希望者が増えています
- フレッシュな野菜生産者を紹介します
- 水稲新品種「みずかがみ」栽培の注意点
- 環境こだわりキャベツ栽培省力化の実証
- 第44回全国ばら切花研究大会が盛大に開催
- トラクター作業の注意点
- ストップ!農業濁水
- エコファーマーマークの使用について

## 新規就農者・就農希望者が増えています

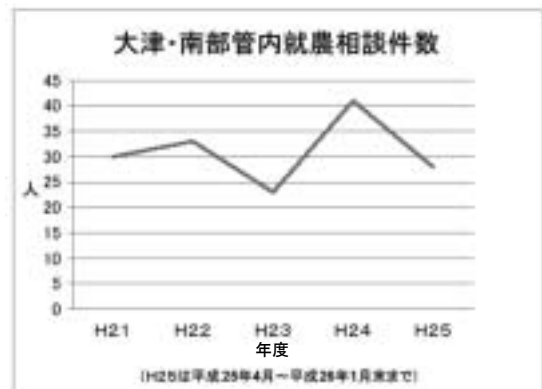
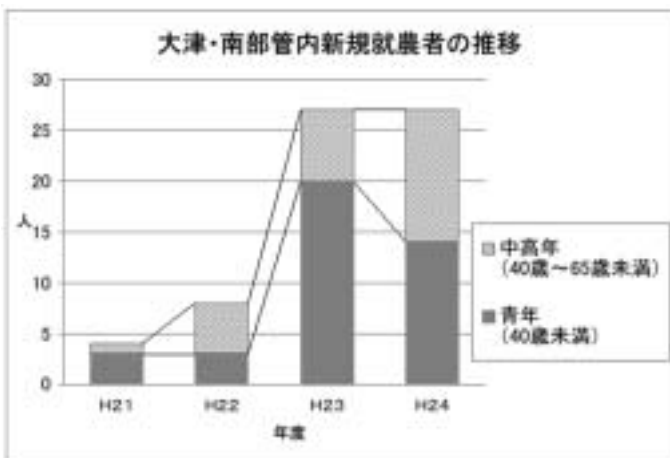
この数年、大津・南部管内における新規就農者数は増加傾向にあり、平成23年度、24年度はともに27名が就農されました。それにともない就農を希望する方からの相談も増えています。相談内容は、農業の一般情報や各種支援制度情報など多岐にわたりますが、非農家出身の方は栽培技術の習得のみならず、農地確保、農業機械や設備の整備等の課題があり、多くのハードルをクリアする必要があります。



栽培開始に向けた相談

当課では、市やJA等の関係機関と連携して、円滑に就農できるように就農計画や資金利用計画の策定を支援しています。また、就農後には、就農計画の目標が達成できるように栽培技術の習得を支援しています。

次のページに、24年度、25年度に就農計画を策定して新規就農された3名の野菜生産者の方を紹介します。地域農業を支える新たな担い手として活躍されることが期待されます。



## フレッシュな野菜生産者を紹介します！

### 小寺 昌弘さん(草津市下笠町)

平成24年8月に就農され、パイプハウス2棟(1,200㎡)で高設イチゴ栽培に取り組んでおられます。プロジェクトしが農業科での職業訓練中に有機肥料でイチゴを栽培する農業生産法人を見学し、同じ方法で栽培したいと1年5ヶ月の技術研修を経て就農されました。今年で2作目となり『下笠いちご園』の名前で直売所やスーパー、ケーキ店、レストランなどに販売されておられます。甘く香りの良いイチゴ作りをめざしておられ、なかでも桃の香りのする「桃薫」という品種は珍しく大変人気だそうです。

「お客様に美味しいと言っただけのことが嬉しい」とおっしゃる小寺さん。今後は年間を通じてイチゴを楽しんでいただけるよう、新たな商品開発にも挑戦したいと考えておられます。



### 深尾 真人さん(守山市服部町)

深尾さんは農業法人に勤務して有機野菜の栽培に携わっておられましたが、仲間が独立するのを見て就農を目指されるようになりました。

2年3ヶ月の技術研修を経て、平成25年9月にパイプハウス17棟(3,900㎡)を建て、生協向けのこまつな・ハウレンソウの周年栽培を開始されました。また、直売向けのメロンや露地野菜を組み合わせた作付を進めておられるところです。

11月から出荷が始まり「自分の名前を書いて出荷でき充実感がある」と話しておられます。

「質よし・味よし・鮮度よし」の「三つのよし」がある野菜をめざして、農園の屋号を『みよし農園』と名付け、消費者に愛される野菜をどんどん提供していきたいと考えておられます。



### 中尾 年優生さん(守山市服部町)

プロジェクトしが農業科で6か月間の職業訓練を受ける中で就農を志され、軟弱野菜を周年栽培する野菜専作農家で技術研修を受けられました。

消費者に安心して食べていただく野菜を提供することを目標に平成25年10月に就農され、パイプハウス13棟(3,150㎡)で生協向けのこまつな・ハウレンソウの栽培を開始されました。

2月から出荷が始まり「生産から出荷までの一連の作業を管理することは大きな責任があり、これまで以上のやりがいを感じる」毎日だそうです。

将来的にはハウスの面積を増やし、雇用を入れた企業的な経営を目指しておられます。



## 水稻新品種「みずかがみ」栽培の注意点

平成25年産「みずかがみ」は、県全体で264名、約170haで栽培されました。収量は平均約9俵/10aで、1等比率が90%でした。暑さによる未熟粒の発生は見られませんでした。

大津・南部地域で昨年みずかがみを栽培した生産者からは「つくりやすい」「倒れない」「粒がきれい」「おいしい」などの声があり、ほとんどの方が26年も作付けされる見込みです。

1月末時点での申し込みは管内で約90haとなり、多くの方が栽培予定です。

### <高品質・良食味米生産の栽培ポイント>

① 分けつがとれにくいので、莖数不足にならないよう、基準の栽植密度より粗くしない。

湖 辺：60株/坪 湖辺砂質・平坦：60～70株/坪  
中山間：70株/坪

② 基肥と穂肥は基準量を目安に施用する。

特に穂肥は多くしても収量は増えず、逆に食味が下がりやすいので基準量より多くしない。

出穂25日前（幼穂長1mm）に確実に施用する。

③ 出穂期、成熟期ともに「コシヒカリ」「キヌヒカリ」より早いため、適期を逃さずに穂肥施用、防除、収穫等を実施し、品質低下を防止する。



※環境こだわり農産物の基準（化学チッソ4Kg/10a以下、農薬7成分以下）を超えないよう注意して下さい。書類の提出も締切を守ってお願いします。

## 環境こだわりキャベツ栽培 省力化の実証を行いました

環境こだわり基準の栽培では、成分の低い有機質肥料を多用するため、施肥にかかる手間が多くかかり、労働負担が大きいため、規模拡大する上でのネックとなっています。そこで、今年度、キャベツの環境こだわり栽培において、施肥作業の省力化を検討するための実証ほを設置しました。

省力のポイントは、①畝内施肥機の利用による施肥作業の軽減、②肥効調節型肥料（CDUたまご化成など）の利用による追肥作業の省略です。

調査の結果、基肥+追肥2回（定植後2週間、結球時）という慣行の施肥体系の収量が高くなりましたが、省力化に向けて、水稻の刈取り時期に追肥作業が省略できる「基肥（肥効調節型肥料の畝内施肥）+結球時の追肥」という体系が有効ではないかと考えています。今後、生産者の意見や調査結果をもとに、施肥設計を検討していきます。



## 第44回全国ばら切花研究大会が盛大に開催される

平成25年10月25日(金)、26日(土)の2日間にわたり、第44回全国ばら切花研究大会が滋賀県で開催されました。台風の接近が心配されましたが、当日は直撃を免れ、全国のバラ生産者と関係者、合わせて約200名の参加がありました。

大会1日目は、バラの流通や切花の消費拡大について、京都大学経済研究所の佐分利応貴氏と浜松PCガーベラの鈴木誠氏の講演会がありました。省エネルギーへの関心が高いことから資材展示で収支試算を提示する取組を行いました。2日目は現地視察が開催され、守山市2ヶ所と竜王町1ヶ所でバラ施設の見学が行われました。それぞれの栽培方法や品種、守山市のバラ栽培についてPRされ、参加者と活発に情報交換が行われました。



大会2日目の現地視察にて

## トラクター作業の注意点

24年度に県内で発生した農作業事故は40件でした。

コンバイン、トラクター、刈払機での発生が多く、特に乗用トラクターは転落や転倒により重篤な事故につながりやすいため注意が必要です。以下に気を付けて安全に運転してください。

- ほ場の出入りは、低速で直角に行く。
- 点検時や、巻き込んだワラなどを取り除くときは、必ずエンジンを切る。
- トラクター走行中は、左右のブレーキを連結する。
- 安全フレームや安全キャブを取り付け、回転部にはカバーをかける。
- 道路を走行するときは、反射板を取り付ける。



## ストップ！農業濁水

毎年、代かきや田植えの時期になると、濁った水が河川を通じて琵琶湖に流れ込みます。暖かくなり、これから春の農作業が本格的に始まります。

今のうちに、レーザーレベラーなどによる均平作業や、畦塗機などによる亀裂やモグラの穴の補修を行い、少しでも田んぼから濁水を流さないように努めましょう。

## エコファーマーマークの使用終了について

エコファーマーマーク(右図)の使用期限は26年3月31日までです。

4月1日以降は使用できませんのでご注意ください。

なお、マークは使用できなくなりますが、エコファーマーであることや認定を受けていることを文字等で表示することは可能です。

※新しい表示例

エコファーマー  
滋賀県認定○○○号

エコファーマーの○○ができました  
滋賀県認定○○○号

